
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 390 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2016.07.21（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 987 部*****

<第 42 回総会・第 40 回山崎記念農業賞のご案内>

*日時：2016 年 7 月 23 日（土）13：00～17：00

*場所：NTC コンサルタンツ（株）大会議室

（東京都中野区本町 1 丁目 32 番 2 号ハーモニータワー20F）

◎総会・山崎記念農業賞表彰式・記念フォーラム

1. 開会の挨拶＝小泉浩郎（山崎農業研究所所長） 13：00～13：10

2. 総会 13：10～13：40

3. 山崎記念農業賞表彰式・お祝いの言葉 13：40～14：20

1) 選考過程報告 渡辺 博（山崎農業研究所事務局長）

2) 農業賞表彰式 受賞者：川田 修氏（(株)川田農園 代表）

3) お祝いの言葉 加藤敏之氏（京王プラザホテル和食総料理長）

（休憩） 14：20～14：30

4. 受賞者挨拶 14：30～15：10

「野菜作りの思いとこだわり」（株）川田農園 代表・川田 修氏

5. 記念フォーラム 15：20～17：00

「こだわり」で結びあう農と食—農園と厨房をつなぐ川田農園の挑戦—

1) フォーラム解題 山崎農業研究所 小泉浩郎所長

2) 我が国における有機農業の動向 元日本土壌協会専門委員 家常 高氏

3) 「栃木県の 6 次産業化振興と川田農園の特徴」

栃木 6 次産業化サポートセンター・実践アドバイザー 小林俊夫氏

4) 「農園」から「厨房」まで （株）川田農園 代表・川田 修氏

5) 質疑応答

6. 懇親会 18：00～20：00

参加申し込み：参加希望者は事前に下記へご連絡ください。

会員外の方 会員外の方 会員外の方 も参加できます。

TEL : 03-5333-2051 (益永)

e-Mail : y.masunaga@ntc-c.co.jp

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 食べ物の本来のあり方を求めて

——「手づくり・とれたて・手わたし」 小泉浩郎

塩谷哲夫

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.138』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<編集後記> 森のことは森に聞け

食べ物の本来のあり方を求めて——「手づくり・とれたて・手わたし」

当山崎農業研究所の第41期会員総会と第40回山崎記念農業賞の授与式が、今週7月23日(土)13:00から行なわれます。推薦された候補の中から栃木県(益子町)の榊川田農園に贈呈することになりました。表彰式、フォーラムは会員外のみなさんの出席も歓迎です。自慢の野菜も展示します。交渉中ですが、懇親会は、提携レストランで行ないます。

川田農園の特徴は(1)子供のアトピー性皮膚炎を契機に新規就農、(2)無手勝流無農薬有機栽培に挑戦、(3)耕作放棄地の利用、関係者の支援で年間180種の生産に成功、(4)朝収穫した野菜は、翌早朝までに料理店に、(5)農園との契約は、料理人からの紹介のみ、現在、契約店舗約140、(6)契約前の畑仕事、契約後の栽培実習(毎年)が契約条件.....などを通して生産者・料理人・消費者のそれぞれ思いやこだわりが、「手づくり・とれたて・手わたし」として伝えられています。

食べ物が生産者から消費者まで渡る過程で、規模やコスト、制度や仕組みが壁になり食べ物本来の姿が失われつつあります。そんな中、補助金も特定の指導者もなく、いわゆる学問や制度、常識や慣習にとられない、現場に学び現場と共に歩む川田農園には、教えられるものが多くあります。

小泉浩郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.138』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.138』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

放射性セシウムの土壌中の挙動と流域水系における動態◎塩沢 昌

[第 153 回定例研究会]

実践に学ぶ「土づくり」の思想—国際土壌年にあたって

健康な暮らしは健全な土壌から◎小泉浩郎

I 高松さんの「土づくり」の思想◎塩谷哲夫

II 私の「土づくり」半世紀◎高松 求

III 高松さんに学ぶ土づくり

—緑肥の利用と耕耘体系について◎小松崎将一

IV 土壌生成メカニズムからの土づくり◎高味充日児

V 植物も少し厳しい環境だとよく育つ?

—微生物のはたらきから考える◎成澤才彦

[特別寄稿] 3.11 から 5 年 いま必要な養生法とは◎今村光臣

[現地レポート] 「NPO 法人きらら女川」を訪ねて

—震災を乗り越えて障害者福祉に取り組む◎渡邊 博

<連載> “生きもの語り”の世界から⑨ 生きものの死を見つめる／宇根 豊

<農村定点観測>

「えすぺり=希望」を込めて／福島県□大河原 海

里山整備から思う持続可能な農業／新潟県□吉原勝廣

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5 版・30 ページ) が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み 500 円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ
栃木県那須塩原市
酪農・教育ファーム・レストラン 人見みゆ子さん
(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

- No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を
埼玉県上尾市 榎本美津子さん (小井川敏子聞き書き)
- No.2 世羅高原のそよ風になりたい
広島県世羅町 井上幸枝さん (後由美子聞き書き)
- No.3 むらにまちにこどもたちにふるさとの味を伝えたい
鳥取県鳥取市 西山徳枝さん (小泉浩郎聞き書き)
- No.4 働きやすい作業環境の改善
徳島県 藍住地区のお母さん達 (小林徳子聞き書き)
- No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い
茨城県大子町 齊藤キヌ子さん (臼井雅子聞き書き)
- No.6 デパートに進出した農村女性
栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ (阿久津加居聞き書き)
- No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる
群馬県嬭恋村 丸山みち子 (丸山みち子著)
- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ
栃木県那須塩原市 人見みゆ子さん (阿久津加居聞き書き)

<編集後記> 森のことは森に聞け

先日、内山節さんの講演会を聞く機会があった(「森の未来・森の可能性——大日本山林会とともに歩んだ三十有余年」)。大日本山林会の機関誌『山林』で、内山さんの随想「山里紀行」の連載が開始されてから今年で 33 年、「山里紀行 IV 日本編」が 300 回を迎えたことを記念しての講演会である。

会場では『山林』のバックナンバーも並べられており、そのなかの 2008 年 1 月号を手にとると、「山里紀行連載 200 回記念 私と森との 35 年」が掲載されていた。

そこには、連載を開始した 1980 年代前半には「村人はまだ林業に望みをもっていた」と書かれている。「木材価格の低迷がつづき、林業で生計をたてるのはむずかしくなっていたけれど、当時はまだ村人の会話の中には林業に関わる話がよくでていた」。しかし「いまでは、そんな話もほとんど聞こえてこない」。そして内山さんはこう書いている。「日本の林業は、意欲が失われたという意味で危機を迎えている」「今日の問題は.....林業の危機ではなく、伝統的な森林利用の危機なのである」と。

講演の冒頭、内山さんは、当時の印象についてあらためてふれながら、いまの林業は経済的にはあいかわらず厳しいのだけれども...と言いつつ、それでも悲観しているようには見えなかった。

「多分」ではあるのだけれども、そこには 3.11 の影響もあるのではないか。3.11 は文明の転換がまったなしであることを、そして、森も含めた自然とともにある暮らしを尊重することでしか未来は拓けないことを明らかにした。だから、経済的に厳しいのはともかくとして、それでも、この道がいちばん確かなのだから——そんなふうに、内山さんの語り口からは感じられたのだ。

彼が 1 年の半分を暮らす上野村は「森とともにある暮らし」をずっとめざしてきた。木工産業の育成は確実に根付いているし、キノコ産業もある。最近では木質ペレットによる発電もすすんでいる。そしてこういう上野村の雰囲気にかかれた I ターン者は村の人口の 20% を占めるそうだ。

内山さんは、森のこと、林業のことを大日本山林会ともゆかりの深い荻野敏雄さんからたくさん学んだという。なかでも「森のことは森の現場に行って森に聞け。そうすれば森が答えを教えてくれる」という荻野さんの言葉は、内山さんが森と向き合うときの姿勢となった。そして森に通いつづき、森の声を聞きつづけてきた内山さんだからこそ、いまという時代のなかで確信をもって言葉を発せられるのではないか、そんなふうに思った。

2016 年 07 月 21 日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバル化の次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 391 号の締め切りは 08 月 01 日、発行は 08 月 04 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 390 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2016.07.21（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』*****